

正改

翁問答

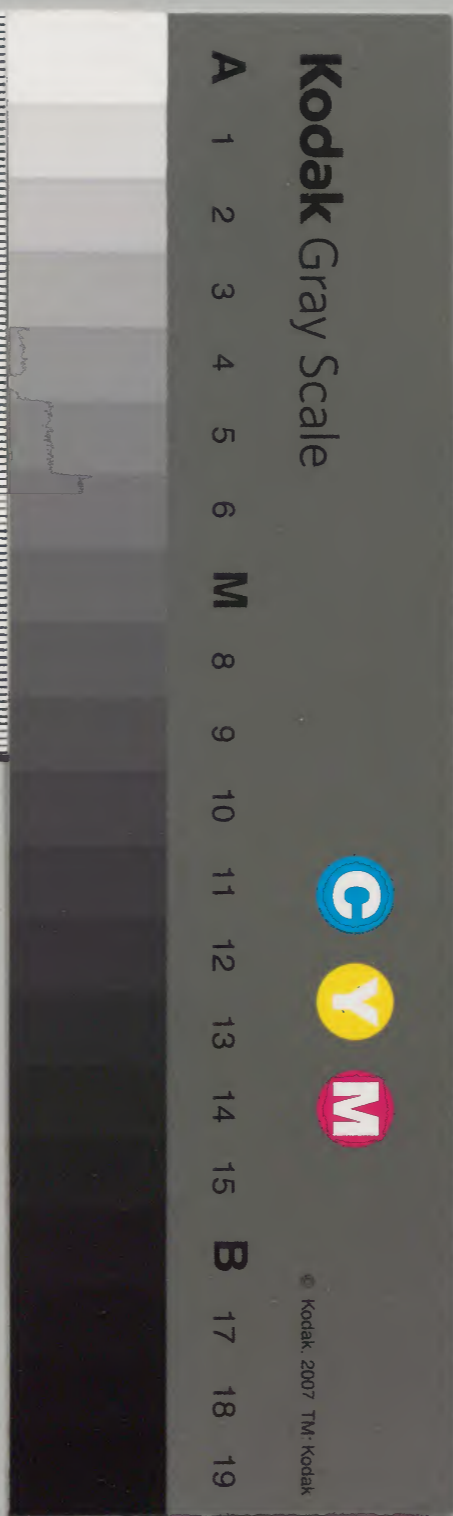
大尾

五

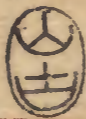
				和書門
		二五九	九	類
	四	七	函	
冊	架	冊	號	

庫	文	閣	内	
九	二	五	九	和
〇	一	九	九	書
一	三	四	冊	
冊	架	冊	號	類

内閣文庫	25199
番號和	24699
冊數	4 (4)
函號	190 284



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



翁問答卷之五

仲之曰。億人といふも。たるまれば。と申す。

原翁曰。心福ちけて。よら上り。かゝる若と。傷人中。

云々。智なく。ま。一。く。癡。純。又。ま。人。に。す。れ。毎。言。

事。軟。歌。う。く。義。理。と。ゆ。も。す。人。を。を。ら。ん。

こ。し。程。狐。の。ご。と。く。人。を。と。と。あ。ふ。り。虎。狼。の。ご。と。く。

か。り。ん。指。あ。る。も。の。が。傷。人。の。標。梁。や。ぞ。れ。虎。狼。程。

狐。は。ご。ら。り。か。り。邪。心。ご。ら。り。か。り。て。又。智。癡。純。之。

事。并。舌。を。ひ。く。若。子。の。あ。る。お。だ。ひ。あ。り。人。と。い。ふ。

こ。し。狐。の。み。ぶ。ご。ら。り。お。わ。ら。び。あ。ら。ん。に。あ。ら。ん。と。凡。事。

あよふ山くぬみか成るあつさもものあり利根
かるものいあつた勝病なりまどく世倍のつら
まけ郷原のにこつらとてまあつちつもの由
郷原ハ名利は歎んぞ本として利害の分る利
根だつた山くぬみけひあつた目利よゆえに
理どめくこと成るまどつらあにたつひそのせり
まげたりもまに山くぬみこつらり君子ハ
しり利根あれども郷原の利根と利根のあつた
里郷原の利根なり名利は歎んぞ純ありと
あつたの是非ハ利根と利根なりまも毛ひあつた

かよふ山くぬみけひあつた目利なくひこまつちつらり
理どまつちつらりあつたつらあにたつひそのせり
あつたれども郷原ハ世あつたあつた君子ハ縁あれハ
郷原の利根どつらりとあつたつてつてまあつちつた
まどつちつらりともまへまへまへまへ郷原積持利根ハ
して逆はつらつちつたつたつたつたつたつたつたつた
甲のれ君子の是非景ハ世あつたあつたあつたあつた
からあに孔子ことのかつたつたつたつたつたつたつた
の賊なりともあつたつたつたつたつたつたつたつたつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

らくわきまんとくちくもせむるあま〜さるのや

体之曰はれしこの禮法よりひてなりあめハ

持のりなりとて及びざるはてはるる

昨氣曰持はれし人の娘月律乃の藝名や大りして

を老舞の禪授湯衣の紋衣おあしてハ用云の

吐握孔子は物之便を云一動の微よむまぐら

持のりなりとて及ばざるはてはるる

持とてはれし大なる儀や程子すてはれその儀と

西〜せし〜り持はれし〜りのおりのりなり神乃と持

と名づらるる名義ハ聖人ハ天と同体ハ薄き是陽ハ

暇滞せず然より〜す独往独來活潑之地より〜

かこむいたちふ所としく〜て天乃の神理に適當

恰好ある景象秤のかりりの量とらあるは性

未滞とて物の持を〜りて適當恰ぬを

おに他より意をい〜り〜と〜り夫笑つたの

人義質の田あわつては〜り〜り持とおこれたる

る。わ〜り〜りあに聖人天下の〜めに禮法と定

後亦終は〜り〜り持のりあれ〜り〜り

お定ぬまじ〜り〜り變通の活潑か〜り〜り

持といふす〜り〜り禮法と云やい意と〜り〜り

おして。學者の準的を示す人ものあり。孟子道
 性善。云必稱堯舜。云の儀曰文主我作や。周云豈
 欺我哉。わくのどし。この賢範と。よく体致して。心
 お。矢。知。べ。この準的と。考。ま。ら。ん。と。ま。ハ。心。学。の
 徒や。と。飲。言。落。法。の。地。執。滞。し。て。氷。禮。の。礼。を
 あり。

一
 仲文曰。洪氏曰。格者。正人之大。有。未。能。立。而。云。格。者。
 人。未。能。立。而。欲。以。鮮。不。作。矣。以。格。云。あり。と。見。や。六
 先生の及。等。と。こ。ゆ。系。弊。を。云。し。と。存。ひ。い。く
 作。者。曰。以。格。云。格。を。王。夫。の。め。あ。り。と。す。り。こ。し。と。い。

ま。し。る。に。あ。り。格。の。理。味。と。ん。ら。ら。ん。と。て。た。た
 そ。こ。ち。ひ。と。あ。る。人。と。い。ま。し。め。ら。ら。ん。と。す。り。格。の
 理。味。を。ん。ら。ら。ん。と。い。て。道。の。さ。り。り。と。り。り。人。と。い。ま。し。る。
 子。一。お。格。又。い。入。る。人。格。及。の。法。お。お。ら。す。逆。よ。お
 つ。ま。ご。ら。而。格。と。又。付。中。庸。精。微。の。矩。を。わ。さ。ま。を。
 教。の。ん。ら。ま。く。せ。て。わ。ら。ん。と。す。法。子。お。ら。ら。ん。と。
 格。の。ん。ら。と。て。格。乃。格。に。そ。し。り。後。を。学。人。
 以。心。儀。に。ま。し。り。これ。格。此。体。格。徹。徹。尾。こ。と。く
 を。中。庸。精。微。の。邪。理。に。し。て。法。に。お。ら。す。逆。に。あ。る
 ま。さ。ら。格。の。景。象。打。り。こ。と。と。さ。と。ら。ん。格。を。德。

以禋祀祀昊天上帝以實柴祀日月星辰以樛燎
祀司中司命司閼兩以粢黍稷五祀五嶽以
粢沈祭山林川澤以醯醢辜烝烝粢四方百物又曰若木
則帥有司而立軍社奉主車若軍將有事則与
祭有司將事于四望又曰凡原田用牲于社宗則為
位類造上帝封于大神祭兵于山川亦如之祭法曰
燔柴於泰壇祭天也瘞埋於泰折祭地也用騂
犢埋少牢於泰昭祭時也相近於坎壇餼寒暑也
王官祭月也夜明祭月也樂宗祭星也雩宗祭水
旱也四坎壇祭四方也山林川谷丘陵能出雲為風雨

見怪物皆曰神有天下者祭百神諸侯在其地則
祭之亡其地則不祭王為群姓立社曰大社王自為
立社曰王社諸侯為百姓立社曰國社諸侯自為
立社曰侯社大夫采成群立社曰置社王為群姓
立七祀曰司命曰中雷曰國門曰國行曰表厲曰戶曰
竈王自為立七祀諸侯為國立五祀曰司命曰中雷曰
國門曰國行曰表厲諸侯自為立五祀大夫立三祀曰
族厲曰門曰行適士立二祀曰門曰行庶士庶人立一祀
或立戶或立竈夫聖王之制祭社也法施於民則
祀之以死勤夏則祀之以身定國則祀之能御水菑

則祀之能得大患則祀之及夫日月星辰民所瞻仰也山林川谷丘陵民所取財用也非此族也不在社典論曰祭神如神在以上代聖謨とよく考へて儒者も亦神の修作するものと信じて居りこれハ神にづからまづる天法也先祖の鬼神と祭ハバカヤ日本の神々の禮法に儒る祭祀の禮よあしうまいたることわりと上三社乃神の意を儒者の神のよつらまづるふりらふよりくまひと六本稻ハ右稷之表向たりとくは修作してんぞと義ありたりやとて神のよつらま

よをれ位におきて仰せられたる玉の風俗をたると天秩の祭祀禮よ考あせせり毎戒して修作するもの神子一而ては志くあり佛者ハ神の修作するを難し新修といふハ六通神ハ通ちどつる拙作をさるる也一併之向曰先生の義とて子居るハ儒なる程の到極しることならなりとていふ人おまうてくあつぬりもくはへとも日本も風俗ありくはるおこあひかてくえんとなははく除る曰これ八道のなるるがをわさるるに儒

まことづつるものなれども一これの禮法よある心
と、彼美法として大よまきまきや、殷の代よ
夏の代乃禮法を作法とわくも、損益一國の代
まきまき殷の代乃禮法を作法とわくため、換益一
にまよもく、ゆるあるべし。物まよ、持のたを、目
あつとにせざれば、あやまりごころひあるものあり
儒事よのまきまきの禮法とす。一もちりつたこれ
を、おとすわたりふとも、まよあるおとす、まよと、
よ。おとす適當、恰好のたけく、儒たとれたことよ、ま
わつた、異、禮、や、そのおとす、おとす、おとす、
こも、たれん、に、名、利、の、私、ある、は、は、せ、も、み、く、ふ、人、と、云
と、の、あ、ら、く、君、子、の、傷、に、あ、ら、ぶ、た、と、ひ、ま、さ、し、ま、し、
傷、事、よ、の、ま、さ、る、正、乃、禮、法、を、作、法、よ、ち、ら、ひ、ひ、て、ま、ま、
り、中、庸、の、天、理、に、あ、ら、ぶ、た、れ、ん、私、な、く、
乃、ん、正、よ、の、ま、し、ひ、お、ま、し、バ、傷、た、と、り、
と、く、後、を、作、法、よ、ま、ま、ら、ま、ま、
ぬ、よ、ハ、行、お、ま、ら、く、も、お、こ、り、ひ、が、つ、ま、ま、
あ、ら、く、の、素、夷、狄、行、乎、夷、狄、素、患、邪、行、乎、患、邪、
君、子、之、入、而、不、自、知、其、
作、之、曰、ま、ま、ら、く、
の、傷、た、と、お、こ、ら、る、
工、夫、ハ、
の、

こも、たれん、に、名、利、の、私、ある、は、は、せ、も、み、く、ふ、人、と、云
と、の、あ、ら、く、君、子、の、傷、に、あ、ら、ぶ、た、と、ひ、ま、さ、し、ま、し、
傷、事、よ、の、ま、さ、る、正、乃、禮、法、を、作、法、よ、ち、ら、ひ、ひ、て、ま、ま、
り、中、庸、の、天、理、に、あ、ら、ぶ、た、れ、ん、私、な、く、
乃、ん、正、よ、の、ま、し、ひ、お、ま、し、バ、傷、た、と、り、
と、く、後、を、作、法、よ、ま、ま、ら、ま、ま、
ぬ、よ、ハ、行、お、ま、ら、く、も、お、こ、り、ひ、が、つ、ま、ま、
あ、ら、く、の、素、夷、狄、行、乎、夷、狄、素、患、邪、行、乎、患、邪、
君、子、之、入、而、不、自、知、其、
作、之、曰、ま、ま、ら、く、
の、傷、た、と、お、こ、ら、る、
工、夫、ハ、
の、

一 昨者曰。信儒の作法ハ。案内ヨ。此ハ。何とも。行
 爲おんヨ。及おんぐ。く。の。定おんて。日おんハ。その。信儒ハ。かみを
 そり。ち。と。ぐ。つ。な。る。ぬ。子。細おんありて。乃。ち。み。ぬ。て。らん。々
 言おん儒おん此おん及おんめて。倫おんト。ハ。中庸おんの。作おん法おん子おんに
 つ。ま。ひ。え。ハ。か。き。を。そ。り。て。し。ら。る。一。つ。ず。泰おん伯おんハ
 孝おんりの。た。め。に。髪おんと。削おん。カ。と。久おんみ。一。た。ま。ひ。一。り。
 ち。ら。と。孔おん子おん。泰おん伯おん。其おん可おん謂おん。也おん。已おん矣おん。嘆おん羨おん
 一。終おんふ。か。と。と。う。ち。カ。と。久おんみ。一。た。ま。ひ。と。か。め。終おんふ
 お。わ。ら。び。た。の。孝おん法おん。十。分おんに。ゆ。ま。し。て。だ。れ。か。こ。ろ。ひ
 た。ま。ひ。ら。う。の。乃。此おん。中おん庸おん。よ。か。ら。い。へ。る。亦おんと。か。め

終おんふ。か。り。し。き。と。と。く。と。う。の。也。泰おん伯おんの。孝おん法おんも
 なく。中おん庸おんに。か。あ。ふ。づ。き。義おん理おんも。な。く。て。か。き。を
 そ。り。て。も。新おん髪おんハ。泰おん伯おんハ。削おん髪おんと。お。り。一。の
 かり。な。と。う。の。人おんあり。れ。ハ。舟おんに。刻おんと。剣おんと。り。
 ひ。る。の。愚おん痴おん。よ。わ。ら。ず。ハ。鳥おんと。後おん者おんと。云おんま。と。つ。ん
 備おん人おんか。久おん一おんに。仁おん義おんの。ち。か。く。ま。る。何おんの。れ。と
 ひ。る。ま。と。も。な。く。て。か。き。と。う。の。也。カ。と。久おんみ。一。り
 走おんま。つ。と。ん。氣おんち。ら。ぐ。ひ。と。云おんま。の。あ。と。ゆ。ん。り。新おん
 歎おんあ。く。急おんり。と。む。さ。ゆ。ん。た。め。産おん後おんの。そ。り。な
 と。ん。た。め。よ。か。み。を。そ。り。て。中おん庸おんの。作おん法おん。よ。か。ら。い

くものどバ務ううさお人とやいんまうとて
 とや。やうんどののうとどりうり。どころあうらうらまうて
 吹味してハ。是此の事。実をれぬをれまてゆ。そん乃
 切とど。そる。おのん。根ハ。道世のため。何れれ。あそ
 考。て。併判。あ。え。一。兵。そ。れ。う。う。の。の。め。ら。り
 あ。う。吹。味。併。判。す。る。ハ。ま。よ。う。新。瓦。夫。乃。あ。さ。こ。や
 これのまよあうす。何りの併判。あ。も。も。ど。ん。根。よ
 て。吹。味。せ。え。れ。い。此。の。あ。や。ま。り。あ。る。を。れ。め。て。ゆ
 三。れ。よ。付。う。う。め。い。あ。わ。さ。ま。人。や。と。さ。き。た。え。あ。り。心
 一。大。唐。よ。盗。証。と。ま。ね。と。く。わ。り。自。然。新。千。人。を

に。卒。し。う。う。の。軍。に。出。一。あ。ま。この。里。を
 や。り。強。盗。一。人。と。殺。り。も。教。と。あ。う。す。ま。成
 勇。の。も。柄。比。お。あ。け。ま。と。も。名。大。お。と。ハ。い。て。す。一
 て。大。盗。一。う。あ。て。や。一。と。は。く。と。う。ら。お。お。の。然。飯
 七。盗。証。の。ぐ。こ。う。あ。け。道。分。剛。強。を。名。行。心。の
 あ。れ。と。武。痛。志。と。ハ。ン。ず。し。て。ね。と。人。と。云。れ。と。一
 う。う。ぞ。れ。け。あ。ま。の。う。ま。し。ハ。名。大。お。武。痛。若。乃
 う。う。ま。し。ひ。お。し。お。う。ま。う。け。ま。と。も。その。ん。根。ね。と
 そ。を。な。と。ま。る。あ。い。その。ん。成。ゆ。く。盗。賊。と。ま。や
 あり。皆。わ。く。の。と。く。一。体。恐。あ。る。と。一

麻衣系座何處と云ふに記しなくんや。王氏曰
曾是巢由後始知堯舜。漆室山豈有拘莫屈
如喬林は待良肯款。吾不相与の之味と能巧よ
わうと云。堯舜は禪授湯武の叙伐にれば之
にこそふとあるの事はともしあれはしあれその
款なく。潔靜精微の神理の清ありて事なり。時
中は天理のわがふと云款と。事高とにたしひを
こがふ所を理にわたりてしるん。款あれば款
ありはしめてふ。款ありうん。事は事なり何
たしむらハ大款と云しのかうと云し。大款なり。

潔靜精微の神理の清ありてその事なり。天
理にわたりて事なり。帝堯は天下を舜よかり
治め。帝舜の天下を禹に治めし。湯王の
桀を放たし。武王の紂を伐て。天下は救済よ
も。皆は款の清りなり。事高と云。堯舜湯武は
款あり。事高と云。わくもこるひ治り。皆貪欲にありや。
天下は授受取り。ハ。極廣大なる事なり。事高と云。万
物はそれのくのごとく。一錢と人よわす。一砂と人より
くも。事高と云。わくもこるひ治り。皆貪欲にありや。
腎款。吾不相与の取んと。後と云。事高と云。天子

下。庶人よ。むすまはく。かとお。世の本分。を
まじひ。と。い。と。あ。の。誠。實。と。た。く。ま。う。と。飲。と。い。
は。一。砂。も。と。く。ち。後。聖。子。を。し。て。と。り。た。く。し。
ま。と。あ。へ。さ。も。の。と。お。く。わ。え。ら。と。飲。と。い。
は。飲。と。ま。う。る。こ。と。は。や。と。え。る。み。あ。く。世。の中。一。若。
宿。指。の。さ。つ。り。に。飲。や。ま。り。く。の。学。問。せ。ぬ。人。も。
生。付。産。産。た。ら。も。の。不。義。の。た。く。り。え。と。い。や。
み。ま。う。ふ。ま。の。け。り。あ。て。ん。学。子。よ。志。あ。る。人。と。や。
利。飲。に。飲。飲。と。形。氣。の。飲。と。あ。す。く。と。あり。
誠。飲。ハ。金。銀。財。寶。と。い。は。ま。り。ま。と。あ。う。た。か。

孝

し。た。さ。さ。る。知。り。と。受。り。や。け。飲。ハ。す。く。や。と。さ。
ま。の。け。り。形。氣。の。飲。ハ。酒。文。に。し。け。る。と。あ。れ。た。飲。
の。飲。利。と。ま。と。め。さ。こ。い。り。や。け。飲。ハ。ま。と。あ。て。さ。も。
の。け。り。飲。と。い。と。う。た。く。ま。お。ん。の。一。念。お。う。
は。と。く。省。察。し。て。か。ら。さ。ら。が。後。聖。子。あ。て。は。け。玉。ま。
を。独。と。云。や。く。く。作。徳。あ。る。人。
一。作。之。曰。先。生。の。教。と。い。ふ。節。之。ハ。利。飲。と。い。ふ。
り。ハ。誠。易。と。い。ふ。名。の。飲。と。い。ふ。と。世。の。お。ま。
と。あ。い。も。お。も。つ。ん。と。い。ふ。氣。随。子。なる。と。作。法。あ。
く。か。う。う。ん。と。ね。い。い。い。

孝

一昨翁曰。それハヨクぬきんまては名れよく、利欲に
くまれば、位よりして、さきより、細名とこの
じとのハ、誠實と、じぶづらに、命で、ぬき、さ
かり、利欲ハ、まじり、もが、さあ、功名、の土、中
の位と、さき、性命、此、孝に、志なく、義理と、さ
き、さき、人ハ、せめ、名れ、欲ありて、利欲、の、さ
かり、い、儒性、命の、志なく、義理と、さき、さ
人、お、ま、何と、れ、し、ぬ、と、記、必、氣、随、い、り、て、
作、成、あり、て、ま、ま、業、人、相、志、の、所、ま、入、り、の、ん
ま、さ、か、り、ま、人、ハ、節、井、れ、所、ま、入、り、の、味、ま、さ、

り、なり、ま、くれ、も、これ、ハ、ん、ま、志、な、凡、夫、の上
乃、味、なり、ん、孝に、志、一、ぬ、上、れ、と、味、ハ、ま、さ、音
別、也、夫、名、ハ、実、乃、實、と、ま、ま、さ、ん、に、お、り、い、身
小、お、こ、た、ふ、実、あ、れ、ま、ま、つ、ち、ま、名、あ、る、も、の、なり
た、ま、ハ、実、ハ、形、なり、名、ハ、教、なり、告、と、お、の、い、告、と
お、こ、た、ハ、告、れ、名、あ、り、孝、舜、孔、教、ま、ど、是、や、悪、を
お、の、い、悪、と、お、こ、た、ハ、悪、乃、名、あ、り、結、案、討、盜、認、ま、ど
これ、か、り、告、と、この、悪、と、い、じ、ま、人、心、秉、彝、也、
本、然、か、り、あ、い、告、名、と、か、め、い、り、と、い、悪、名、を、い、く
ま、ま、さ、か、り、告、の、所、の、なり、ま、ま、さ、ん、に、お、り、い、身

いさごころ紀士ハも名たりくわふ一孝成らん
とこの然りもん根名とこれとていくじ。兼
養の女也。ちりて利欲にけがれてきつる
さ凡夫にらぬまは。位りうられともめ
法ゆるあつば。未のわきま人とあつば。凡
俗のわやまらに。或ハ未とすとも未と
考と一或ハ未とすとも未とすとも未と
ふ根の始。善とこの悪といくじ。兼養の女也
よ。似れども。性命と。性命と。性命と。性命と。
あふ。歎の。いとは。利欲と。ふが。六

清濁うりあり。之とも天性と。さるひやう。お孝
莫大の罪に。ちりる。ハ。かりなき。よ。名
と。利との歎と。牛角に。さる。ちりる。ものや
さて。名の。善。未の。差別ある。よ。と。よ。と
さ。ま。な。れ。も。名。の。歎。と。と。人。と。志。あ。つ。て。も。
王。ま。ん。げ。も。一。か。つ。賢。君。子。英。雄。孝。子。忠
臣の。美。ま。か。つ。の。善。あ。つ。も。義。理。よ。あ。る。い。く
ふ。と。天。理。善。実。の。名。と。云。や。異。端。曲。子。れ。名。乃。孝
ま。か。つ。一。つ。れ。善。に。て。も。義。理。よ。あ。る。い。く。と。汚。倍。妖。妄
の。名。と。云。て。善。み。れ。い。と。い。ふ。や。妖。妄。の。名。と。

二の心 意ハまよやましく。いづも 志実の名と。二の心
意ハ 中未と。少くわさず。ふれ。ば。まよ。か。て。く。い。と。人
不 知 而 不 疆 の 位 に。い。つ。入。つ。て。聖 賢 志 士 の 英 雄
孝 子 忠 臣 の 名 美 云。ま。か。つ。て。い。て。も。義 理。い。う。か
ひ。つ。る。か。ま。れ。ハ。み。ま。ま。と。新。と。や。ま。名 美。乃。根
本。と。形。と。ハ。その。心。と。り。跡。と。や。聖 賢 の 心。と。名
ま。ま。と。聖 賢 の 行 跡。と。が。ま。お。こ。ま。つ。け。し。て
聖 賢 此。か。ま。れ。と。と。ん。り。と。求。め。ん。に。孝 道。か
く。ま。に。ま。り。と。た。ま。り。と。な。り。乃。美。と。し
ひ。る。ハ。た。と。ハ。形。り。ま。に。新。を。り。と。ひ。る。う。ご。し。

猿 猴 の 水 の 月 と。所。ら。び。に。他。り。その。う。人。か。ま
乃。う。ら。に。連 城 の 珠。も。も。あ。ら。り。て。王。云。乃。位。よ。も
ひ。え。ら。名 美。云。の。美 樂。あ。る。や。と。あ。ら。ん。世。乃。凡。ま
の。理。も。な。き。倍 後。此。か。ま。ま。と。も。と。め。称。ひ。て。む
稱。と。こ。う。か。ま。な。ら。り。と。め。楚 女 の 影。と。と。と。
め。く。餓 死。し。ら。り。と。記。れ。う。る。ま。ひ。下。に。淺。名
一。名。れ。歎。と。ま。つ。る。に。先。を。せ。ひ。志 塵。考。れ。念。と
か。ら。う。と。一。の。の。の。味。体。徳。と。名。の。歎。と
ま。つ。る。乃。根 本。天 理。此。美 樂。と。し。と。め。氣 神。と。し
と。れ。作。法。と。し。と。せ。ん。あ。ら。れ。ハ。ん。孝。に。志。あ。る

ものハ名とせばるやと氣値れおらなく作
法うくならて相れももつて卒井れ凡そ
つげ君子申り乃れよとく君子れかまれか
めいして玉皇のあまの名利の教よおろ澤らん
間思雜と一念の微に省察して独と悟て乃
そきころり乃第一乃要法よそい
一俾え曰楚女れおもとりてめて餓死しつると
云りハ何ころり乃よとくかた

一原籍曰それハ寓之の故事也じう大唐楚國
の王これかそき女と親せめされれ楚申り

これれかそき宮女楚王のあひつさたまふま
り成るひ令物をくびとを屋せあをあし
やそくたるべきと判會してかつ死しつると云
るや世るのあそきををりしむる人と見るに
そ時代の天子諸侯のあそきたまふり世俗れあ
てりてをやとひあれを是非善悪のえしひか
くそ耐ふお通するゆにん成をちあをよとく
云を巧しとて義理不義とわらま入び一向世人
の養をりあそき恰も楚女れ親せとりてめ
嫁死しつると似るあふ寓之の故りとかつて

たとへば。心算に志ある人をも戒むべきや
一休元曰。習深んといひ。やうなるんを中しや

昨為曰。習深んといひ。生中てより。これを見あれ
味あれ。くおもひ。あふ。びよ。つとなく。あやうり。そ

まり。ころん。あう。たへ。水。ま。く。米。と。け。ハ。それ
久希く。縁者。と。け。だ。それ。久。希。く。なる。が。と

一。本来。の。色。ハ。赤。も。青。も。な。げ。ま。ど。も。米。と
縁者。と。な。ま。り。り。あ。や。う。と。か。く。乃。と。し。それ。こ

と。く。本来。の。心。好。悪。の。子。定。ハ。な。げ。ま。ど。も。そ
生。そ。た。つ。五。石。の。風。俗。を。家。乃。は。作。に。あ。や。う。そ

まりて。好悪の。心算。を。て。に。う。り。あ。り。学。問。藝

能。も。智。心。あ。り。生。本。の。乃。獨。的。と。う。考。定。を

上。あ。と。智。心。と。味。し。て。か。ら。さ。る。べ。一。米。と。と。さ

希。と。色。に。書。じ。ら。水。も。よ。く。す。ま。い。ぬ。は。米

を。中。に。所。く。あ。れ。本。の。あ。ら。う。り。の。あ。り。ま。り

て。家。算。を。其。の。心。乃。水。ハ。そ。の。に。さ。り。ま。ま。一。や。せ。り

家。へ。さ。り。や。作。法。後。要。一。そ。の

体。元。曰。回。思。雜。を。と。六。い。る。や。う。なる。念。を。思。う。と。由

存。心。也

昨為曰。一。心。を。念。に。あ。ら。せ。れ。も。思。ひ。く。益

たぐ。さげもたさるゆゑと。うりむししく思ひゆて
天皇の。さつひとなつて。回思と云や。海子接
物の際。お告れあふ。おとが。お思。おす。おに。王
考。一。考。成。他。の。念。乃。と。り。ま。せ。お。る。感。通。の。さ。り
と。か。る。と。難。と。と。や。び。二。つ。六。か。り。と。痛。と。却
て。克。治。と。と。さ。の。れ。な。り。よ。く。省。察。あ。る。べ。し
一。体。克。回。曰。仙。術。と。学。ふ。人。は。生。不。死。れ。益。あり。佛
乃。と。修。り。す。る。人。は。成。仏。得。脱。の。益。あり。と。及。此
儒。道。を。学。ぶ。も。さ。る。か。る。身。後。の。益。あり。の
こと。也。

一。昨。翁。曰。ま。れ。難。も。異。端。れ。脱。と。回。あ。る。て
か。る。ゆ。ゆ。に。い。く。の。孝。經。易。經。城。と。く。悟。六。生。亦
死。後。の。と。り。り。掌。と。指。と。く。か。め。よ。く。六。兔。角。の
儀。備。よ。及。ぬ。ゆ。や。あ。る。と。の。今。時。の。人。は。あ。か。ひ
疑。あ。れ。志。を。し。く。仙。佛。の。乃。に。よ。り。と。と。ま。り。し
と。と。ま。り。可。中。の。仙。家。生。不。死。の。術。も。佛。家。成。仏
得。脱。の。修。り。も。皆。畢。竟。ハ。一。心。乃。王。考。や。他。考。は
を。修。心。煉。性。と。字。名。と。し。佛。家。は。ぬ。ん。見。性。と
字。名。と。す。ま。王。考。の。十。分。成就。す。る。亦。の。心。性。と。長
生。不。死。と。云。成。仏。得。脱。と。云。や。二。氏。も。も。に。元。氣。の

灵光とん性^{れいこう}の獨^{どく}的^{てき}とて元神^{げんじん}の妙理^{めうり}とて
 けす然^{ぜん}あるに^に凡^{はん}性^{せい}成^{じやう}及^{じやう}中^{ちゆう}の^の君子^{くんし}より
 一^{いつ}位^ゐや^や儒^{じゆ}家^かも^も一^{いつ}心^{しん}の^の工夫^{くふう}を^を考^{かう}と^と元神^{げんじん}を
 神^{しん}と^と性^{せい}の^の獨^{どく}的^{てき}と^と窮^{きゆう}理^りを^を性^{せい}に^に於^お命^{めい}と^と宗^{しゆ}
 名^なと^と以^い工夫^{くふう}十^{じゆ}分^{ぶん}を^を批^ひと^と心^{しん}の^の性^{せい}と^と神^{しん}を^を宗^{しゆ}
 殊^{しゆ}を^を息^{そく}と^と云^いを^を宗^{しゆ}と^と凡^{はん}性^{せい}成^{じやう}及^{じやう}中^{ちゆう}の^の君子^{くんし}より
 も^も仙^{せん}の^のも^も一^{いつ}位^ゐま^また^たる^るお^おあ^あれ^れば^ば長^{ちやう}生^{じやう}不^ふ死^しと
 指^さ示^しの^の益^{えき}も^も佛^{ぶつ}得^{とく}脱^{だつ}と^と指^さ示^しの^の益^{えき}も^も一^{いつ}位^ゐま^ま
 たる^る益^{えき}あ^ある^ると^と知^ちと^と性^{せい}理^り會^え通^{つう}曰^い易^い曰^い保^ほ合^が大^{だい}

子^し一^{いつ}團^{たん}真^{しん}理^り實^{じつ}氣^き充^{ちゆう}宇^う宙^{ちゆう}而^に無^む餘^{じよ}歷^り浩^{こう}劫^{けつ}而^に
 無^む改^{がい}鼓^こ剛^{かう}柔^{じゆう}生^{じやう}造^{ぞう}化^け生^{じやう}萬^{まん}象^{しやう}撰^{せん}三^{さん}才^{さい}冲^{ちゆう}漠^{まく}網^{めう}
 緼^{ゆん}融^{じゆう}和^わ純^{じゆん}粹^{すい}若^{じやく}能^{にやう}保^ほ此^し氣^き而^に不^ふ失^{しつ}合^が此^し理^り而^に不^ふ違^{たが}
 身^み同^{どう}木^{ぼく}道^{だう}如^{じゆ}点^{てん}兩^{りやう}之^の滴^{てつ}海^{かい}渾^{こん}滄^{そう}溟^{めい}而^に共^{きやう}存^{ぞん}心^{しん}契^{けい}
 天^{てん}真^{しん}猶^{じゆう}片^{ぺん}雲^{うん}之^の没^{ぼつ}空^{くう}攬^{らん}太^{たい}虛^{きよ}而^に同^{どう}久^{きう}利^り通^{つう}而^に無^む
 滯^{ちゆう}礙^{がい}貞^{てい}固^こ而^に無^む變^{へん}遷^{せん}故^こ天^{てん}地^ち終^{しゆう}而^に壽^{じゆう}不^ふ竟^{けい}日^{にち}月^{げつ}
 晦^{くわい}而^に明^{めい}不^ふ虧^{かへ}故^こ曰^い至^し誠^{じやう}無^む息^{そく}不^ふ息^{そく}則^{すなは}久^{きう}久^{きう}則^{すなは}微^い
 微^い則^{すなは}悠^{ゆう}遠^{えん}善^{ぜん}保^ほ大^{だい}和^わ者^{しや}誠^{じやう}道^{だう}之^の至^し妙^{めう}者^{しや}也^{なり}聞^{きん}
 者^{しや}疑^ぎ之^の曰^い性^{せい}即^{じやく}理^り也^{なり}命^{めい}即^{じやく}氣^き也^{なり}人^{にん}之^の性^{せい}天^{てん}地^ち之^の理^り
 也^{なり}人^{にん}之^の命^{めい}天^{てん}地^ち之^の氣^き也^{なり}誠^{じやう}能^{にやう}以^い性^{せい}合^が天^{てん}地^ち之^の理^り以^い命^{めい}

會クワイ天地之氣ノ即チ天地之理リ。自ジ性也。天地之氣ノ自シ命也。理氣無終壞レ。此性命亦無終壞レ。譬言以水投氷乎。何可竭レ。以火投火乎。何可滅レ。由其躰大造レ而超レ小劫レ。故不以天地之成毀而成毀レ。獲大身而忘レ小形レ。故不以軀殼之存亡而存亡レ。謂之盡ニ性ニ至命ニ。謂之体道ニ。同天ニ謂之至德ニ。疑道ニ此中大有ニ真樂ニ。盎然春融ニ。熙然宇泰ニ。既利且貞ニ。活潑々地ニ。即易之黃中ニ。通理正位ニ。居体義在其中ニ。暢ニ干四肢ニ。発于事業ニ。義之至也ニ。此乃儒教中不死之神方ニ。長生之下術ニ。不可与守レ空寂而坐レ枯禪ニ。

弄精ロウ竈ソウ而希コト昇シヨウ舉キョ者ノ。同ニ白ハク而シテ語カタル也ノ。其ノ賢ケン範ハミとシテ作ス孝コウしてシテ傷ケあリてシテ聖セイ神シンをシ得トク息ソクの位イはシ仙セン佛ブツの修シユ行コウにシテかハりてハシ樹ジュしてシテもシ及キばシぬレ也ノ。おのりをめよわらさま迷マヨひをちこたまふる也ノ。保ヤ命メイ和ワまる心シン法ホウとシテ作スのりとシてシべくすもあらず也。全ゼン孝コウの心シン法ホウ也ノ。

体タ元ゲン曰ク全ゼン孝コウの心シン法ホウとシてシべくすもあらず也。孝コウ經キョウ曰ク夫レ孝コウ天テン之ノ經キョウ地チ之ノ義ギ民ミン之ノ行コウ天テン地チ之ノ經キョウ而シテ民ミン是レ則レ之也。又ク曰ク天テン地チ之ノ性セイ人ニン為ス貴キ人ニン之ノ行コウ莫ナシ大オホ於レ孝コウ。孝コウ莫ナシ大オホ於レ嚴ケン父フ。嚴ケン父フ莫ナシ大オホ於レ配ハイ天テン。又ク曰ク孝コウ悌テイ

九

之至通於神明充于四海無所不通詩云自西自東自南自北無思不服曾子曰夫孝置之而塞乎天地溥之而橫乎四海施諸後世而無朝夕推而放諸東海而準推而放諸西海而準推而放諸南海而準推而放諸北海而準詩云自西自東自南自北無思不服此之謂也又曰衆之本教曰孝其行曰養養可能也敬為難敬可能也安為難安可能也卒為難父母既沒慎行其身不遺又毋惡名可謂能終矣仁者仁此者也禮者履此者也義者宜此者也信者信此者也強者強此

又當父作

者也樂者自順此生刑自及此作孟子曰仁之實孝親是也義之實從兄是也智之實知斯二者常去是也禮之實節文斯二者是也樂之實樂此二者樂則生矣生則惡可已也惡可已則知足之蹈之乎之舞之禮記仁人不過半物孝子不過半物是故仁人之事親也如事天事天如事親是故孝子成身以上此聖謨賢範也若夫孝悌之孝法の親切真實廣大高明無上無外也若夫孝悌之孝乃外也徳もなきならん孝悌は

して父刑莫大の肉刑と文へと魔んやしくたれ
情火急しんく子竟しん去り。神心しんにお通す。至し徳の独楽
と。りくじの工夫くわを三や一念に画やくんもそおやの力ちから
こころいんうると云い子こ細こハ孝こう強じやう曰い身み体たい髮はつ膚ふ受う
之これ父母ふぼ不な敢かん毀くわい傷きやう孝こう之これ始はじめや。これ聖せい謨みのんハ我われカ
々さるるものハんも性せいも力ちから也なり。毛もう髮はつも皆みな親おや
ん性せい力ちから也なり。毛もう髮はつを更さらへるといふれハ力ちから也なり。髮はつ膚ふ
も亦また力ちから也なり。髮はつ膚ふ子こわらひ親おやの力ちから也なり。髮はつ膚ふ
力ちから也なり。髮はつ膚ふのちからも力ちから也なり。ん性せいも。我われん性せいもわらひ
父母ふぼのん性せい也なり。去りるなれ。我われ力ちから也なり。髮はつ膚ふとそこ

あいやう。即すなはち父母ふぼ力ちから也なり。髮はつ膚ふをくこころひ
やうかり。去りる性せいとそかりいやうするらら
父母ふぼの性せいとそかりいやうするものかり力ちから也なり。髮はつ
膚ふハ器きりていやく性せいハ器きりて去りるも
のかり。やく力ちから也なり。髮はつ膚ふをくこころひやうも
大たい惡あく逆ぎやく大たい凶きゆう也なり。力ちから也なり。髮はつ膚ふのちからも力ちから也なり。夫おとこ乃すなはち
衆しゆ性せいとそかりいやく。移うつハ大たい惡あく逆ぎやく大たい凶きゆう也なり。
やく理りをゆふ。わらひんくんよりく守まも不な敢かん毀くわい
傷きやうハ孝こう也なり。更さらへると始はじめかりと去りるまよやく。聖せい
謨みとく力ちから也なり。名な利りの欲よくおるん間ま思し

雜ちりまじるものの於お念んとく克くすくままくくおお徳とく性せいを
 ううここまますすハハ即すなはちち父ちち母ははのの徳とく性せいととくくここまますすハ
 りりかかめめやや孝こ弟ていこのこの言ことはは終つひ小こ念ん爾に祖そ祖そ律りつ循じゆん
 厥そのとと徳とくととくく徳とくをを引ひくく踏ふみくくまますすハハももももももとと示し
 たたままんんたためめかかりりくくくく作し徳とくああるるハハ
 傳たんん曰いハハ身み體たい髮はつ膚ふととくくここららひひややううららなな孝このの
 よよてて内うちををうう軍ぐん陳ちんめめてて疾まをを彼かりりううらら死しとと
 不ふ孝こめめとと内うちををううんんとと

一 陳ちん翁うん曰いハハ天てんががららんんのの心こころををここららひひととしし不ふ義ぎすす
 為なららぬぬににくくここららひひややううららがが不ふ孝こややししとと

孝こ弟ていもも身み體たい髮はつ膚ふ受う之を又また母はは不ふ敢かん毀く傷やう孝こ之を以もつ
 ろろとと示したたままハハ活かつ毀く傷やうハハ血けつ肉にくのの身み體たい髮はつ膚ふ也なり
 ここららひひややううららににままわわららぬぬ孝こ徳とくととくくここららひひをを
 ううららぬぬやや害がい仁にんととののままハハ害がいハハ字じののまま也なり血けつ肉にく乃なり
 身み體たい髮はつ膚ふののままハハままわわららぬぬ孝こ徳とくハハ形かたち體たいののまま也なり
 仁にん者しや人にん也なりととののままハハ仁にん字じののままハハ形かたち天てん性せい也なり惟い
 聖せい人にん獨どく性せい可か以もつ踐せん形かたちとと殺ころめめらられれるる形かたち色しき乃なり字じ
 ののまま也なり仁にん孝このの疑ぎ聚くりりるるままハハ天てん性せい也なり孝こ弟ていもも身み體たい髮はつ膚ふ
 中ちゆう来らい天てん性せい仁にん孝このの疑ぎ聚くりりるるままハハ天てん性せい也なり
 孝こ弟ていもも身み體たい髮はつ膚ふこれこれなりなりとと示したたままハハ

天性仁孝のるをいによりり力におこりよきこと
たとい血肉の骨体髪膚とハぞとたひやあらん
とも不孝にあらずに孝なりや。血肉の骨体髪膚
とハぞとたひやあらんとも。天性仁孝の骨体髪
膚をうけたりひをうけざるあや。殺身成仁と云く
まふハ皮と云くや。天性仁孝れたんまよと云くは
ふおこりついでして悪逆之道たりと云くはたとい身
と命とて毛一と云くはたひやあらんとも。孝
りにあらず不孝や。血肉の骨体髪膚とハぞとた
ひやあらんとも。天性仁孝の骨体髪膚をう

孝

行ひやあるあや。曾子曰。戦陳。吾勇非孝也。以貴
範のさハ軍陣戰場とて武勇と云くはたひやあらん
とて軍功と云くはたひやあらんとも。死するが孝
りや。若し武勇と云くはたひやあらんとも。軍功をた
くざる時
狼臆病の悪名と云くはたひやあらんとも。不孝やと云くはた
ひやあらんとも。陳の弭曰。若し有曾子之心。即龍之身首
分裂と云くはたひやあらんとも。曾子。終終の河の
子と云くはたひやあらんとも。不敬毀傷ハ
と云くはたひやあらんとも。記せり。曾子。これな
んはと云くはたひやあらんとも。

孝

らりて 皮肉の骨体髪膚をそごりひやせざる所と云く
天性に孝の骨体髪膚をそごりひやせざる所
とありしやせられしやせざる所 孝の骨体髪膚をそごりひやせざる所
城章句の儒者曾子の言をささるるに
只血肉の骨体髪膚をそごりひやせざる所
已し 禱祝するに 陳成公 棄めあり けし
の言は 全孝なる言と云く 皮肉をそごりひやせざる所
干れ 諫て せにめされて 骨体髪膚をそごりひやせざる所
骨を裂き せざる所 曾子の言は 皮肉をそごりひやせざる所
と云く 皮肉の骨体髪膚をそごりひやせざる所

なり 孝りやせざる所 全孝なる言は 皮肉をそごりひやせざる所
せざる所 八十九拾まで 年老く 家のうら
て 痛死して 毛一毛も せざる所 皮肉をそごりひやせざる所
きし 銀も せざる所 刑罰を せざる所 皮肉をそごりひやせざる所
おれし 孝なりし 言は 皮肉をそごりひやせざる所
神元 問曰 全孝の言は 皮肉をそごりひやせざる所 皮肉をそごりひやせざる所
孝の聖域へも せざる所 皮肉をそごりひやせざる所
昨 養曰 心学ハ 凡夫より 孝人よ せざる所 皮肉をそごりひやせざる所
の言は 皮肉をそごりひやせざる所 皮肉をそごりひやせざる所
りて 実ハ 皮肉をそごりひやせざる所 皮肉をそごりひやせざる所

中より吾山をあらせ。表より光彼。上下格。あ
 りゆへ。南面の位よりありて。帝堯は君たるや。北
 面の位よりありて。帝舜は君たるや。位とゆす
 て下にありて。玄聖素王のたり。孔子曰。夫聖
 人之徳。又何以加於孝乎

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

解同卷下 丙戌冬

魯國乃悉莊子不語りて曰。身より仁徳者にたり。志
 先生の道と學ぶ。のこり。あ。莊子曰。身より仁徳者に
 是くが。君あやまりて。多し。と。乃。魯公の曰。魯國の
 人。色。半。儒服と。志。より。あ。小。と。い。ん。や。莊子曰
 儒服。ハ。徳。志。乃。若。東。なり。仁。義。ハ。徳。志。乃。若。東。を。誰
 も。志。べ。し。れ。る。儒服と。志。より。人。より。仁。義。乃。公。が。死。ハ。儒
 志。小。り。し。り。守。り。儒服と。志。より。凡。夫。夫。仁。義。ハ。志。子。け
 り。乃。愛。用。し。る。徳。が。い。は。し。し。英。王。乃。若。東。と。志。より。人
 少。く。も。仁。義。の。公。あ。る。凡。夫。夫。仁。義。ハ。志。子。け。し。し。若。東。乃。若。東。と。志。より。人
 凡。夫。夫。仁。義。ハ。志。子。け。し。し。若。東。乃。若。東。と。志。より。人

改

下の大不幸なうとけり、

自北以下十三夜も書收あやて又才が死あひま

乃一候の終りもむと下亥の午と小亥大同故小冊之

侍元曰名利ふんわらうと學問とる人ふを益が死のりこと

少くゆふのそ名門乃多れもなく道よりあふ落しして事

回とる人乃益が死のそふわす人皆くあふあそけ

儼のかりのふならゆ死わらるるけり 師乃曰人の目こく

一と後そく知あつともあうがらも自満乃公が死を

まれながらまのぼん明徳とくまうりまうひとま祥く

くせりのふととらるの乃らるびも又まうとせうりた

らまうそれか易小天道虧盈而益極地道衰盈而流極鬼

神害盈而福極人道衰盈而好極道高而光卑而不可

踰君子之終也とるる盈は高謙甚しくその道と是と

して自用ひ可事なるとゆふ人とくまうりわあたらん也

極は温恭自若あして自及一獨と情一人とうる守人

とあかたらず人よななく言とかなと極也盈は天地鬼神の

そこがひ極極ふ可あしく人も又是と極と讀天地鬼

神の保祐一後よわして人も又是と極と極と極と極と

極して若学乃盈とととと極と極と極と極と極と極と

換あけけゆ人よ温恭自若乃四字としく初學之法の末

一義をすけ四字乃はを用ひ極のその此極の道行その

まめふととあしくそふらみうととからしく明徳曰ふ

心くわ小なりありありけ法ふらしてはんど乃
 そりされいそまきさる皆満ん乃らることなりて明徳曰
 小晴くありぬくのよ此れ満んる天地鬼神乃種法ふ
 さらりなりゆへよまふそく初我のありのよからゆへ
 も又是と怒ひ是と晴和は魔と来とすつるなりとぞ一
 晴亦小魔と来ぬは月何事し冥目とりのそ人といけ
 信忠ことありす天下小我とす守るまふあつと人もゆ
 さら高満とけあ小わく親あわくこつらならすとけ
 あり交すしとわかとらかりとそりあそまのれと是こ
 人と此とす威の世乃ありとらといひ福りぬること然
 らのこ式ハ甚しこころ此の氣なりとふくこもわらとるを

子かくれうと此乃人まむせらうこあとおまこ有とい
 せとがと帝とを死くこがけは只何とあくそくおづ
 してはん心くつとがなる事とて死す人どたあなるか
 か分けしこころあされハ又禹ハ智人なれハ毛吹の満んハ
 有よりこれと伯益禹と賛けく後招換道受意こハ
 せまうて智人なら下は海乃人あがくともい戒とて人
 せんや周公乃おわりては満んあつハた小そくここと孔
 子の乃こまふも高満の凶徳乃甚く害あり事といやう
 の後みありまふよ志あり人そ云よ及守意子の人も
 魔障と徳のうこ後を死事第一乃急務なり名れ

乃ちこれなく道小高し有こいを高儀乃西儀とのそ此
しつるん侍が死しよのく暗雨小魔と来し其身凶悪
小満入乃とかりすうがな此等乃よふすと付る事わこ
ましくなげう我も人も能くまうじべーく
齊人と魯人と郊上賊よ此魯軍乃志よは大将の再求也
楚周父御をら樊遲右らしそ小戦合く魯乃老を好
軍一の志を志よハサもあらそうす樊遲乃謀を用ハ再求
自身は入く齊乃軍と戦り甲首八十とぬるゆい今
魯國乃勝軍にかりぬ其後季康子再求しにける今
の軍功をいひん此律から軍法と学ひゆいあま
や作し又せれ付るるを用とると再求を言て曰せぬなり

わして能くろ小物守孔子小きいゆらとてし季康子
よ倍く繁とりのく孔子としえ孔子魯をよゆらゆいぬ
仰乃曰再求若季氏く大将とかりゆされどけけ軍功をえ
くすけ軍功なくハ孔子乃文武兼仰ら軍法よ長し治よ
事と季氏ういひある事わこハゆらとて智人のつさす
時え人かく乃とくがれハ右世の文氏とよけて二のよと
あわやまらもさのそらびまうし事りや侍元曰孔子
くれあく軍法よ長しゆいゆ漸乃其公よ侍人をまふ
らるハつて仰の曰無き凶儀かりとて人君子あれ用
をけ天下乃乱とまめく凶儀都く其とあせり小人
是と用少月及もとみざり夫よりよりさういあく凶儀

わろ人と儒者とのくがせらひまゝし世人乃のよゝあは付
そら小よめく孝の物より坊主又ハ出家がこれよりこ
小あゝ士乃あゝまゝよめくどがどく死らこまらこ
あり孝の實義世の小めくあゝらる事天下の人不
幸なる人ー 同云孝のや忠世小めくうがしらるこ
と天下乃大不幸かり事ゆゑ 善曰孝の明徳とらる
ふらるとまゝに親をすむ徳ハ我人の親乃根なりま
人をいひわくまゝに主君はうけて下人のまゝらあ
りこゝしくまゝ人のあゝまゝあゝあゝ事みか天理よそ
びさひまゝ名刺のまゝく親とを親とせど忠とま
まゝまゝく一むよゝまゝれとれ一人と換らるあゝ利發也

慈と用ひわわゝまゝひわうひ高しこ時ハ主親とを親
と忠逆とがせらる人乃乃善ハ明徳のまゝまゝりあゝ
まゝ天下此無礼も又明徳のまゝまゝまゝまゝり是天下
乃大不幸よあゝまゝまゝや聖人は是とわられまゝハ明徳と
らる小らる教とまゝく人の親わらるがどれあゝけまゝ
まゝり法入りし四書又神小のまゝまゝれあゝなり
同曰書又經ハ世のまゝ小流布トて後乃の法山がれたは
實義ゆゑかかゝすして世俗のまゝまゝまゝまゝ
善曰世俗乃孝のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
小学乃實義と知く孝のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

あつちの事公乃望う又いあやのまらう或ハキそ
くは三流と志しうして多心とるふふのく多の身一袋の
明徳とめうくふらる事ハ培造りゆこガ此事ガれを
ゆと可くく一刃とわさじら善ハなて又藝と名漢す
お病乃らむび可なり名ふあ一夫棄りら方われぞと
「此先学小教交ガ死よ」何く道乃何くふ小あら事と
王此主人ど流小先王乃法皇ノ太子此迹と認く道と
せら乃好格套と名とゆこりせら乃理家と認く理
ら一是どののくゆと可く一刃と修らんこ伎術とこ
けじふし何くか来活津融通乃部くこくこ自己心
裏に固有とくる明徳の寛法也柔らくて圭角目一

くうと次来く小人と和睦せと何かみの小なりぬく、わ
せは学乃善とゆふりのいそく之藝りりなりせられ
人是と名く物よと名あい一やなとの外ハ吾輩のこ
かりとゆくはうてこいれが死小あすり一又せら
乃孝老人とに凡情乃習態とわいいとく多の才一系
の明徳とめうかあく存懐忠信のまことわくハ親ハ子
此学乃せらるとなげこ名ハ下乃學術と死とさう
い学のとそ一お口が死乃こあくこ士ハ及子農
人商人とゆくもそ多の介してうかり事なりとも
てんやとゆくこおまけを俗乃学乃とそ一あよあ
ど孝老乃そ一かなり孝老乃事ゆく亦なりあう家

乞と人己事とゆはる勢ありて皆聖賢乃極一を
 書かれ無用此書と何す乎よと云ふ所の書物較乃多
 ぬよん成るべしとすを一向小聖人とならんことと
 勸まし進いしとすま自心裏乃明徳とゆふも亦す
 善と水びりて聖賢賢徳と云く不明徳と云ふのま
 三善あり福縁一はるり栽培二はるり中道三はるり
 三善あり自心乃のりことりよのりゆふ亦す平生
 俸察乃功と用いしとてしことりなくハ二六時平
 如小善としそすをゆふ亦の善ありとすなり
 善なりく善としそすをゆふ亦の善ありとすなり

新の善上丁亥冬

問曰人乃世第一小福のひりてびとりの何事そや
 善云ん乃毎糸極なり 問曰人乃世第一小いひ
 善云ん乃の何事そや 善云ん乃の苦痛より外をなり
 問曰善と云く果とりの何事そや 善云ん乃の何事そや
 問云善の何事そや 善云ん乃の何事そや
 善曰元来昔人乃の何事そや 善云ん乃の何事そや
 善曰元来昔人乃の何事そや 善云ん乃の何事そや
 乃苦悩が死とてハ佛なりなりと云くハ佛なりなり
 中侍毎糸ありて苦痛が死りのるり苦痛の年と云ふ
 善曰元来昔人乃の何事そや 善云ん乃の何事そや

此乃兼能然師乃学愈新なる不志さくはく此回書
愈之ゆふふりば改正乃ありわり多れ廣く門人
そふ授け給守愛ふ奈未乃年梓人の手よりれて
改上梓ふらりむり幸と早く知く是と所少りぬ
或人の曰る能回若ま之正明ありくま論快活あり吾人
乃感なりがごと死是と讀く善とり家とわかく人
何ゆゆよりこく候くあま福授け給守也師の
曰吾は回若と書と一時今ふはとれい学いまる精
らに且智道乃りけれゆるといれい未学の弊と救ふ
ふふありわらぐゆ人よま漢論柳楊新く流しま
乃累とまぬれむ漢人吾んまをゆとむとむとむと都て

或ハ勝心と助多んく悲くはせふ善がよく授わらん
吾んれ改改正とんを欲とわらゆ人よ今ひらく徳ん
事と欲せす
丙戌乃年下巻一二篇と所一法よ丁亥の年又これ
と改りんす守宿とらくくの故もや少さありて流し不
兼同年上巻と改め去とんを欲とまらあり又果す
先師嘗曰回若乃中信佛と論じら所の正死今是と讀
よま理精尚とゆゆ事と善よ
又曰回若上巻吾善也又觸發して筆と下巻ゆい
此善字と播弄と孝経の旨小極くは放くをふふ
とわらむと又と今ふれとるくぐとあつと

又曰世書志まわりの世成懐の弊と憂りの的の人讀ハ
或ハ編發真起わらん術乃精微用功下子の真地の
ぐらうさハいささか可い痛し及守それ先師乃家か
くれとく一是とりの向答と如と事と中前より
どわらう人ノ師事あはく後家それと茲と終り今
年春又梓家小渙て終り板のと終りささく讀よ乃
草稿の平わて旧中の法書小亦ふも何とぞと
一しつらせるとりの向さや誤字脱簡も亦同
クゆ一今やむととゆとてそれと考下
改訂の編入一再よと事と叔一
師の志くしつらくささくそれ梓
刻むし志

あれとりの向くも字乃日く小新なる事と考人終小け
門答とりの向て了もささくして精微中庸と希
かけい虫乃ひ入徳乃階級とをかりねるしりな紙
ゆり一讀をく清血の交がく致知乃たるそのあは
却て先師のかそれも弊一偏らんる吾堂致哉

庚子六月既望門人識 尾定

天淵二平

江左傳馬町三丁目

書林 宋九左衛門關板

天保二年辛卯

秋八月磨滅補刻

日本橋通貳町目

江戸書林

小林新兵衛

青雲堂藏板目錄

江戸下谷御成道

英文藏

中井藤樹先生著
翁問答

四冊

藤樹先生傳學宏才ヲ以テ徳ニ入ルベキコトヲ旨トシ和漢ノ故事ヲ多ク引テ人倫日用ノ教トナシキコトヲ專ニカサシテシラセタ
ルニシクシテ且オモシロキ隨筆ナリ

清嘉録

五冊

コト各ハ唐土ノ年中行事ニシテソノ國風ヲ下アタリ見ルカ如ク清俗如開ト同シオモ
ハキニシテ加ルニ民間ノ景物ヲクハシク記シタ
ルニシクシテ且オモシロキ隨筆ナリ

香菴集

一冊

錦鋪ノ才子詠貴スベキ者ナリ

清吳孟華選
宋四靈詩鈔

二冊

宋ノ不嘉中詩作ノ名人四家ノ詩ヲ合セ撰ミシナリサレバソノ作意世ノ常ナラズ句
句トニスクシテ高ク讀ムモノヲシテ
駁絶歎シテ自ヤムコトアタハガラシムルホド
ノ妙作ナリ

虛字啓蒙

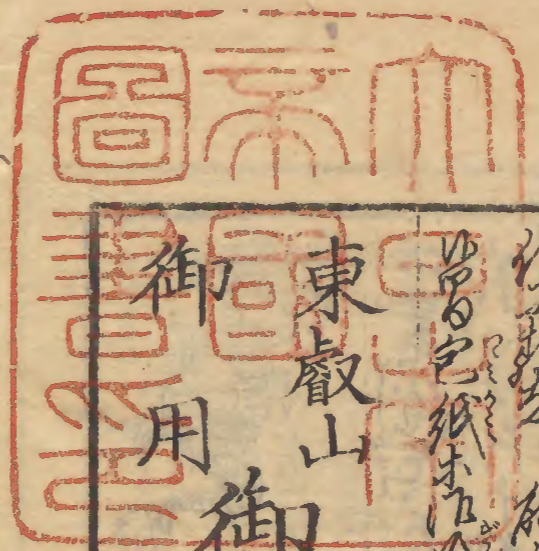
王潤州著

合一冊

詩用虛字 北山先生著
此ニ各ハ詩文トモニ虚字ヲ用フルコト尤
難シモシテ誤リ用ルトキハ文ハ語ヲ成サス詩
ハ意ヲ失フコトサカラス僅クノ小冊子トイハ
レトモ虚字ヲ説クコト簡ニシテソノ要ヲ悉
ク示スト云フベシ

和漢朗詠集

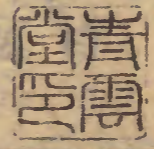
寸珍本 一冊



東叡山

御用

御書物所 青雲堂英文藏製



江戸下谷御成道

一 かしらせ交
 一 咽候せりつ死
 一 爲飲りてむきさう
 一 婦人産後産後妊婦の咳
 一 疥癩の茶者より徳の虫物より毛はく黄茶より取らざる如
 一 一えども如河内の際咳はそも一夜おる茶、等が家の茶法中々
 一 此の煎め、種、用ひて、偽り、を、知、る、丸、外、に、務、め、茶、多、く
 一 常色紙未江吟味と
 一 痰飲吐てえ出候
 一 爲飲りてむきさう
 一 小兒百日せき
 一 此外、痰、を、起、す、病、切、り
 一 丸、外、に、務、め、茶、多、く
 一 丸、外、に、務、め、茶、多、く

江球下茶

Handwritten mark or signature in the bottom left corner of the left page.

